

小規模企業景気動向調査 [2022年9月期調査]

～コロナ第7波の収束で売上増加も、低採算から脱却できずにいる小規模企業景況～

<産業全体> コロナ第7波収束で売上増加も、低採算から脱却できずにいる小規模企業景況

9月期の産業全体の業況は、コロナ第7波の収束により売上額 DI が大幅に改善し、採算・資金繰り・業況 DI が小幅な改善となった。全業種で売上額 DI の改善がみられるものの、採算 DI は低水準で推移し続けている。急激な円安によるコスト高に対し、価格転嫁が追いついていない、とのコメントもある。行動規制の緩和が続き、好転の兆しが見えつつも、未だ厳しい経営環境・経営状況が続いている。

	DI	8月	9月	前月比
売上額	▲	110	▲ 40	70
採算	▲	479	▲ 460	19
資金繰り	▲	37.1	▲ 34.9	2.2
業況	▲	346	▲ 305	4.1

<製造業> 売上好調も、急激に進む円安で収支のバランスが崩れ、資金繰り計画に苦しむ製造業

製造業は、売上額・業況 DI が小幅に改善、採算 DI がわずかに悪化、資金繰り DI が小幅に悪化した。食料品関連は、3期連続で売上額 DI が改善、10月の値上げに向けて駆け込み需要があった、とのコメントが目立つ。繊維関連は、冬物衣料の需要増加及び価格転嫁が進んだことで全 DI が改善した。機械・金属関連は、半導体事業が全体を牽引。その一方で、急激に進む円安等の影響で、資金繰り DI がここ1年で最大の悪化を示した。

	DI	8月	9月	前月比
売上額	▲	82	▲ 37	45
採算	▲	554	▲ 556	▲02
資金繰り	▲	432	▲ 460	▲28
業況	▲	40.7	▲ 37.5	32

<建設業> 災害復旧需要により全 DI 大幅改善も、材料費の高騰や人手不足から不安が残る建設業

建設業は、全 DI が2期連続で改善。他業種と比較して、唯一の大幅改善となった。好調が続く官公需・民間工事や、8月に発生した大雨による災害復旧に加え、新たに9月の台風被害の復旧需要が追い風となった。また、以前よりも原材料の納品が早くなったため、工期遅延が改善されている、とのコメントがあった。一方で、前月同様、原材料・燃料費の高騰や人手不足が続いており、安定しない、などのコメントがみられた。

	DI	8月	9月	前月比
売上額	▲	82	0.7	89
採算	▲	56.4	▲ 48.1	83
資金繰り	▲	43.1	▲ 34.4	87
業況	▲	35.6	▲ 28.3	73

<小売業> コロナ第7波の収束で売上増も、採算性悪化に歯止めのかからない小売業

小売業は、売上額 DI が大幅に改善、資金繰り・業況 DI が小幅に改善する一方で、採算 DI がわずかに悪化した。食料品関連は売上額 DI が大幅に改善する一方で、採算 DI に関しては4期連続の悪化。買い控えを恐れて価格転嫁に踏み切れない、という声が多くみられた。衣料品関連は、売上額 DI が大幅改善。コロナ第7波の収束と、秋冬物の需要増から客足が戻り始めた、とのコメントがあった。耐久消費財関連は、売上額 DI が大幅に改善。車の需要はあるが、新車生産が追いつかず、中古車価格が高騰し続けている、というコメントが目立つ。

	DI	8月	9月	前月比
売上額	▲	19.7	▲ 10.7	90
採算	▲	49.9	▲ 50.6	▲07
資金繰り	▲	38.9	▲ 37.7	12
業況	▲	42.4	▲ 38.8	36

<サービス業> 行動制限緩和で売上増加も、原材料高等で低水準が続くサービス業

サービス業は、売上額 DI が大幅に改善、採算 DI がわずかに改善、資金繰り・業況 DI が小幅に改善した。旅館関連は、前月から引き続き売上・業況 DI が大幅改善となり、行動制限緩和による旅行客増加が顕著にみられた。クリーニング関連は、全 DI で改善傾向がみられたものの、依然として原油・原材料高の影響を最も受けており採算性が悪い。理・美容は、売上額 DI が小幅に改善し、安定してきている。その一方で採算 DI が大幅に悪化した。水道光熱費等の経費上昇で利益を圧迫している、とのコメントがあった。

	DI	8月	9月	前月比
売上額	▲	8.1	▲ 23	58
採算	▲	300	▲ 299	0.1
資金繰り	▲	230	▲ 21.6	1.4
業況	▲	19.4	▲ 17.4	20

調査概要

・調査対象:全国約300商工会の経営指導員
・調査時点:2022年9月末

・調査方法:対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。